

奄美大島での人囮法によるブユ採集

大塚 靖

Black Flies Collected by Human Bait Trap in Amami-Oshima Island

OTSUKA Yasushi

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima University

要旨

奄美大島での人囮法によるブユ成虫採集を行い、どのような種類が吸血に来るかを調べた。2015年7月と10月に大和村で採集した結果、全てアシマダラブユであった。奄美大島には他にもブユは分布しているが、吸血被害を減らすにはアシマダラブユに対する対策が必要となる。

はじめに

奄美大島ではブユの吸血被害が知られている。さらに、九州本土ではブユは吸血するだけでなく、人獣共通フィラリア症を媒介することが知られているが、奄美大島での実態は調べられていない。奄美大島でも人獣共通フィラリア症を調査するためにも、どのような種類が人に吸血にくるのかを知ることが重要となる。奄美大島での人囮法によるブユ採集を行い、どのような種類が吸血に来るかを調べ、今後のブユ対策について考えた。

方法

2015年7月23日と10月13日に大和村の名音川沿い（北緯28度18分44秒、東経129度19分55秒、標高240m、図1）、人囮法（車のエンジンもアイドリング状態で同時に使用した）により、日の入り前2時間ブユの雌成虫を採集した。気温は7月23日が24°C、10月13日が19°Cだった。採集した雌成虫は80%アルコールに入れ研究室に持ち帰り、顕微鏡下で種の同定を行った。また、雌成虫採集地周辺の河川でブユの幼虫および蛹の採集も行った。

結果と考察

採集したブユ雌成虫は7月がアシマダラブユ (*Simulium japonicum*) が136頭、10月がアシマダラブユ19頭であった（図2）。今回は日の入り前2時間のみの採集であった。これはこれまでの採集で朝と夕方に採集のピークがあることが報告されていたからである（CHOOCHOTE *et al.* 2005）。奄美大島でも同様な傾向が予想されるが、分布する種類が違うことから今後の確認が必要である。ブユの季節消長については、地元の人聞き取りにより春（5月ごろ）にブユによく刺される人が多いことから、春にブユが多く発生し夏から冬にかけて、その活動が抑えられていくのではと思われる。

また、雌採集地側の名音川で幼虫および蛹の採集も行い、アシマダラブユとスズキアシマダラブユ (*S. suzuki*) を採集した。これまでに奄美大島では、この今回採集した2種類の他には、ヒロシマツノマユブユ (*S. aureohirtum*)、ミエツノマユブユ (*S. mie*)、オキナワナンヨウブユ (*S. okinawense*)、キアシツメトゲブユ (*S. bidentatum*) が知られている (TAKAOKA and TAKAHASI 1977)。今回採集されたブユ成虫はアシマダラブユのみであるが、九州本土ではキアシツメトゲブユが優先種である (FUKUDA *et al.* 2010)。奄美大島ではキアシツメトゲブユの分布も報告されているが、今回は採集されなかった。また、キアシツメトゲブユは本土で人獣共通感染症であるイノシシの保有するフィラリアの一種 *Onchocerca devitiei japonica* (*O. d. j.*) を媒介している。奄美大島には亜種であるリュウキュウイノシシにも *O. d. j.* を保有している可能性があるため、その場合は奄美大島での媒介種の調査も必要となってくる。

ブユ対策として十島村中之島などでは、河川に定期的に薬剤をまいてブユ幼虫をコントロールしている。これらの地域は居住地区でのブユ吸血被害が多い地域であるため薬剤を使用しているが、奄美大島でのブユの吸血被害は山間部に多くみられている。これは山間部にアシマダラブユが分布しているためであり、平野部や海沿いの河川ではアシマダラブユはそれほど分布していない。よって、中之島などの薬剤散布はブユ以外の生物に対する影響が大きく推奨できないので、個人での対策が重要となる。一般的な対策ではあるが、春から夏にかけては、山間部は入るときは肌の露出を減らし、露出部には忌避剤を使用する。また、秋から冬にかけてもブユは少ないながらも吸血に来るので、これまでブユ刺症で強い腫脹を経験している人は、春夏と同様の対策が望ましい。



図1 採集地



図2 アシマダラブユの雌成虫

引用文献

- CHOOCHOTE, W., TAKAOKA, H., FUKUDA, M., OTSUKA, Y., AOKI, C. and ESHIMA, N. 2005. Seasonal Abundance and Daily Flying Activity of Black Flies (Diptera: Simuliidae) Attracted to Human Baits in Doi Inthanon National Park, Northern Thailand. *Medical Entomology and Zoology*, 56: 335-348.
- FUKUDA, M., OTSUKA, Y., UNI, S., BAIN, O. and TAKAOKA, H. 2010. Molecular Identification of Infective Larvae of Three Species of *Onchocerca* Found in Wild-Caught Females of *Simulium bidentatum* in Japan. *Parasite*, 17: 39-45.
- TAKAOKA, H. and TAKAHASI, H. 1977. Blackflies (Simuliidae). In: *Animals of Medical Importance in the Nansei Islands Japan* (Eds. SASA, M., TAKAHASI, H., KANO, R. and TANAKA, H.), 177-186, Shinjuku Shobo, Tokyo, Japan.